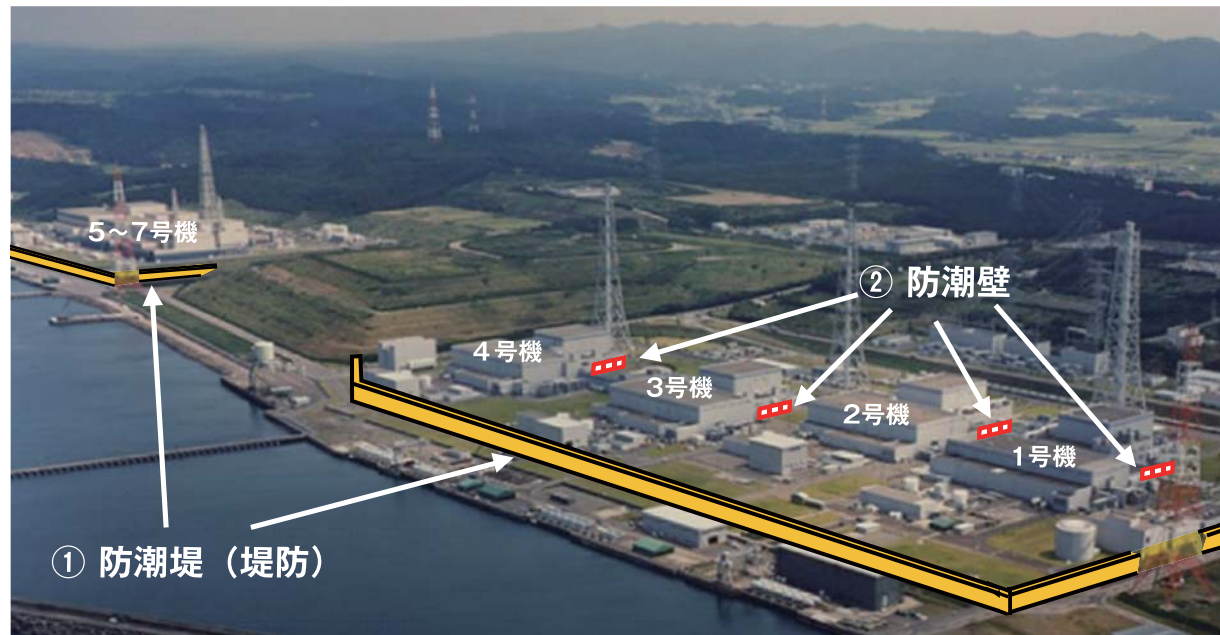


# 柏崎刈羽原子力発電所では津波への対策を進めています

福島第一原子力発電所における事故および放射性物質の放出により、地域の皆さまに大変なご心配とご迷惑をおかけしておりますことを、心より深くお詫び申し上げます。

柏崎刈羽原子力発電所では、既に実施済みの津波に対する緊急安全対策に加えて、安全上重要な施設に浸水させないため、防潮堤（堤防）、防潮壁の設置準備を進めています。



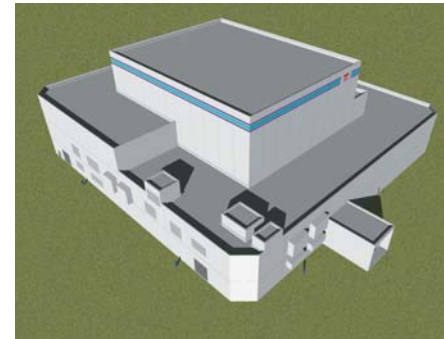
防潮堤・防潮壁設置のイメージ

## ②防潮壁を設置します

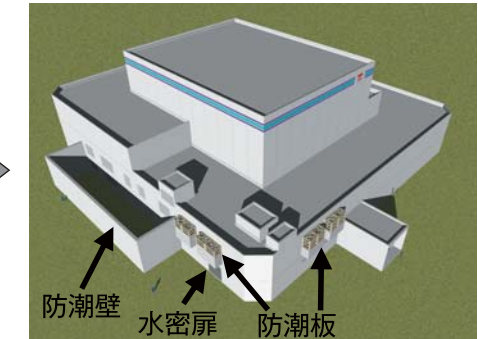
万一、津波が防潮堤を超えるような場合に備えて、原子炉建屋内への浸水を防ぐため1～4号機の原子炉建屋の海面からの高さが約15m以下の開口部（給排気口）に防潮壁または防潮板の設置や扉を水密扉にします。

5～7号機の原子炉建屋には、海面からの高さが15m以下の開口部はありません。

対策前



対策後



1号機の設置検討イメージ

## ①防潮堤（堤防）を設置します

海岸前面に設置し、敷地内への津波の侵入と衝撃を防ぎます。高さは海面から約15m、長さは約1.5km（1～4号機側）、約1km（5～7号機側）。現在、工事の準備をしており、できるだけ早く着工できるように、検討を進めています。



1～4号機側の防潮堤（堤防）



設置予定箇所の調査（6月22日）

## 運転中の1号機で当面の対策を実施しました

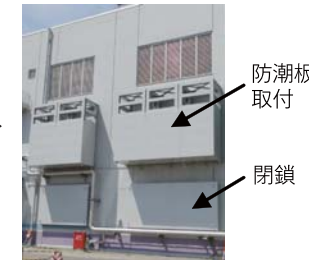
原子炉建屋の海面からの高さが約15m以下の開口部（全17箇所）のうち、可能なものは閉鎖し、その他は防潮板を取り付けました。

また、原子炉建屋の扉には、防潮板などを設置し、止水シールを施しました。

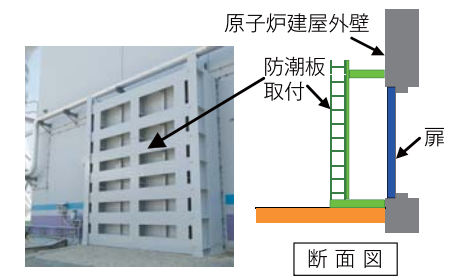
対策前



対策後



防潮板取り付け（開口部）



防潮板取り付け（扉部）